

水害時の住民一人ひとりの行動計画

マイ・タイムラインの取り組み

(一財) 河川情報センター
流域情報事業部
向井 正大

1

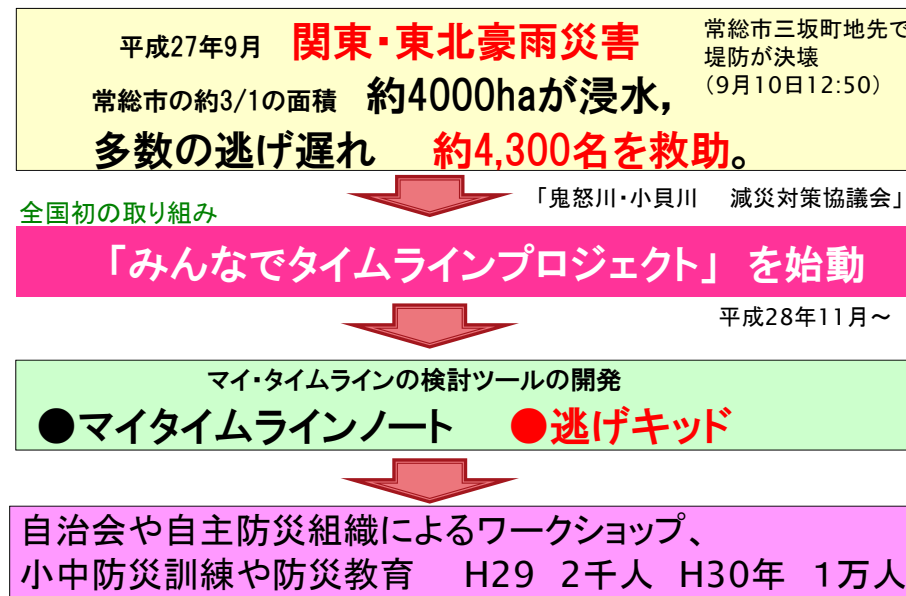


本日の発表の流れ

1. 取り組みの背景・マイ・タイムラインとは
2. 取り組みの事例紹介
3. マイ・タイムラインリーダー制度
4. 今後の展望

3

1. 取り組みの背景と経過



4

平成27年9月 関東東北豪雨 (2018.9月9日~11日)



みんなでタイムラインプロジェクト

住民一人ひとりが自分自身に合った避難に必要な
情報・判断・行動を把握し
「自分の逃げ方」を手に入れるため
「マイ・タイムライン」を自ら検討するプロジェクト

個人の事前 避難行動計画

■ 個々の生活環境に応じたマイ・タイムラインを作成していく試みは、**全国初**

6

～逃げキッドの中身～ 詳しくは参考資料

1 マイ・タイムライン作成のためのチェックシート

2 「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう!! (資料1)

3 「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えを考えよう!! (資料2)

4 きみだけの『マイ・タイムライン』をつくってみよう!! (シール付き)

5 みんなでつくろう! マイ・タイムライン ~マイ・タイムラインをつくるためのヒント集~

6 ご自宅に戻ったらみなおしてみよう

シール付き!



はじめに確認しましょう!

- 1 マイ・タイムライン作成のためのチェックシート
- 2 「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう!! (資料1)
- 3 「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えを考えよう!! (資料2)
- 4 きみだけの『マイ・タイムライン』をつくってみよう!! (シール付き)
- 5 みんなでつくろう! マイ・タイムライン ~マイ・タイムラインをつくるためのヒント集~
- 6 ご自宅に戻ったらみなおしてみよう

7

マイ・タイムラインをつくろう!

- Step1 自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知る
- 過去の洪水を知る
 - 地形の特徴を知る
 - 水害リスクを知る
- Step2 洪水時に得られる情報を知り、タイムラインの考え方を知る
- 洪水時に得られる情報とその読み解き方を知る
 - タイムラインの考え方を知る
 - 洪水時の自分の行動を想定する



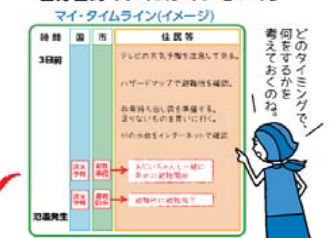
- リスクを認識できる
- 自分の家が浸水してしまう
 - 避難所まで遠い など
- いつ、どうやって逃げるかがわかる
- 何を持っていく?
 - いつ逃げる? 誰と逃げる?
 - 危険な場所をよけて逃げるには?

マイ・タイムラインをつかおう

- 災害時の防災行動チェックリストで対応の漏れを防止
- 災害時の判断をサポート



- Step3 マイ・タイムラインを作成する
- 自分自身のタイムラインをつくる



- 地域で作れば...
- コミュニケーションの輪が広がる
 - 意見交換することで知り合いになれる
 - ご近所とのつながりが強く、ふとくなる



8

『マイ・タイムライン』をつくってみよう！！

「台風が発生」してから「川の水位が上がる」までの備えをいつから行動するか書いてみよう！

みんなが考えた「台風が発生」してから「川の水位が上がる」までの備えが『マイ・タイムライン』だよ！

9

マイ・タイムライン 「逃げキッド」とは

- 自らの洪水リスクを知り、
- 逃げるタイミングや方法を考え、
- 避難のための情報を確認しながら、
- 安全な避難に役立つ 簡易ツール。

10

2. 取り組みの事例紹介 ①防災教育

検討方式

学校の先生が講師になり、小・中学生を対象とした防災教育の一環としてマイ・タイムラインを検討する形式

実施場所・時間

常総市の小学校・中学校（1時間程度）

資料

逃げキッド（小中学生向け教材）



小学生を対象とした検討会の実施

登校班による防災行動の検討

■小学生が作成したマイ・タイムライン

11

2. 取り組みの事例紹介 ②講演会

検討方式

お天気キャスターによる講演を聞いてマイ・タイムラインを検討する形式

実施場所・時間

宇都宮市、筑西市（講義：30分
マイ・タイムライン作成：60分）

資料

逃げキッド（小中学生向け教材）



講演方式による検討

お天気キャスターによる水害リスク等の説明

■住民が作成したマイ・タイムライン

12

2. 取り組みの事例紹介 ③講習会

マイ・タイムラインを作るう！
一緒に考えてみませんか
最近の、雨のこと——

2018年
8月26日
日曜日
1回/20分

第1回 11:00~
第2回 12:00~
第3回 13:30~
第4回 15:00~

会場
道の駅 うつのみやろまんちゅく村
〒700-0001 岡山県倉敷市大井町1-15-1

水防災意識強化週間

参加費 無料

講師
お天候キャスター
山神明理
(気象予報士・防災士)

マイ・タイムラインを作ったから……
準備はできてる？
今のうちに逃げよう！
避難行動！どうしよう！
マイ・タイムラインを作ったから……

経験したことのない豪雨が！
——そのとき、あなたならどうしますか？

日時 9/1土 10:30 - (10:00)

会場 守谷市中央公民館
守谷市目合ケ丘2-25

水防災意識強化週間

講師
お天候キャスター
山神明理
(気象予報士・防災士)

13

2. 取り組み事例 ④自治会の訓練

国・県・市・住民参加

マイ・タイムラインを活用した情報伝達訓練



災害対策本部の様子



マイ・タイムラインを住民が発表中



高台の避難先エリアに避難した住民

14

2. 取り組みの事例紹介 ⑤事例通信教育方式

検討方式

Youtubeに5本の逃げキッドの検討手順を示した動画を、各個人が自宅等でマイ・タイムラインを検討する形式

実施場所・時間

自宅等（30分程度）

資料

逃げキッド
(小中学生向け教材)

インターネットの映像を見ながら、マイ・タイムラインが作成できます。



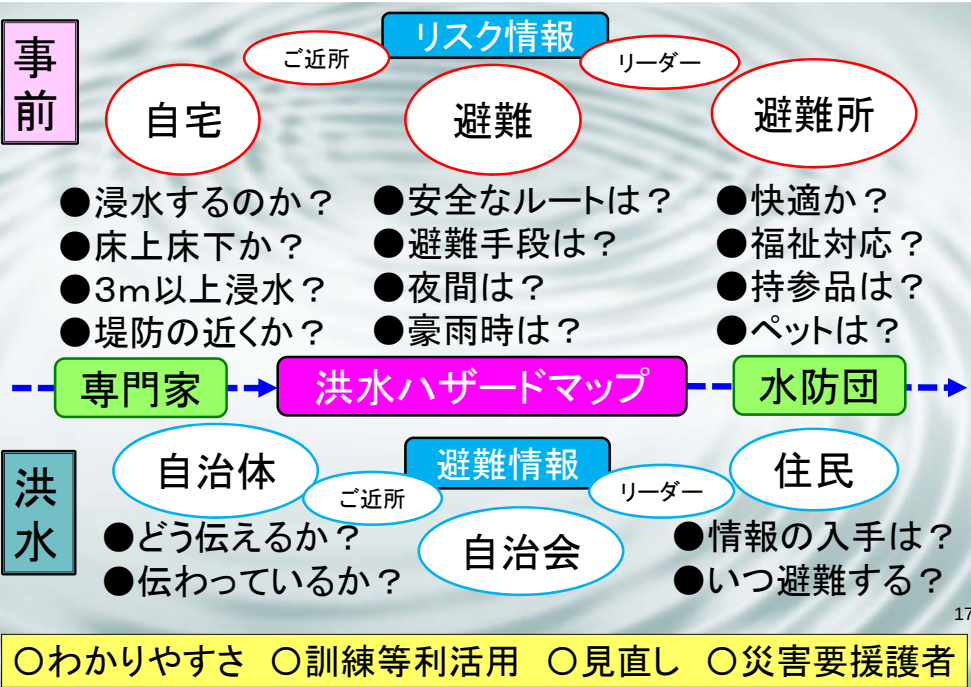
15

これまで参加された住民や児童の方のご意見

- 防災において地域コミュニティの結びつきが重要なことが再認識できた。
(50代・男性)
- いつも祖母と離れているので、近所の方のお顔やお名前がわかってよかった。前回の災害を踏まえ、親戚皆で話し合い、今後の事を話し合いたいと思った。
(20代・女性)
- 近所の人のお考えを聞くことで新たに役に立ちそうなことに気がついた。
(50代・男性)
- 自治会規模で避難を考えねばいけないと痛感しています。動けない人をどうするか、もっと具体的に話せればと思います。
(50代・女性)
- 2年前に水害の用意をしておきばよかった（小学生）
- わかったことは、私の住んでいる場所は川に挟まれていて、低いところに家があるので雨が降ってきたらすぐに逃げられるようにすることが大切だとおもいました。
(小学生)

16

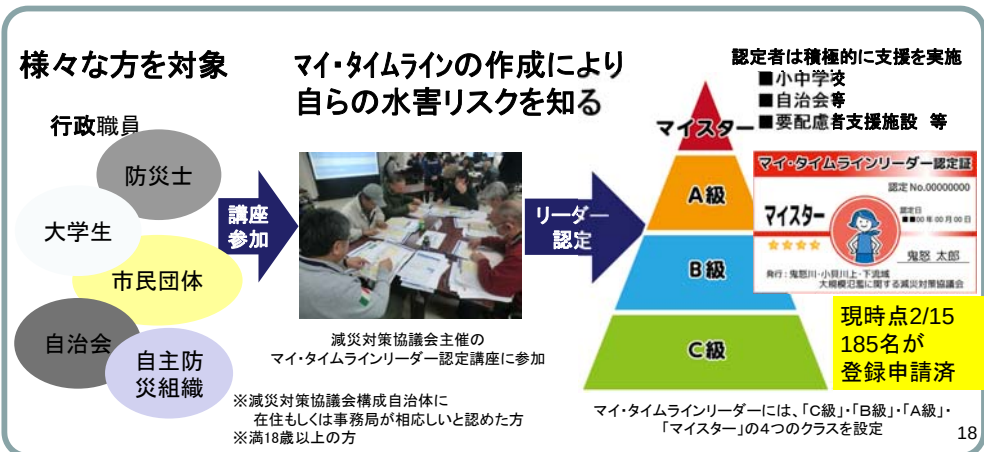
事前



17

3. マイ・タイムラインリーダー認定制度

- ◆目的: 地域に防災・減災活動を根付かせるため
- ◆概要: 防災・減災の知識や経験を持ち、地域に貢献できる人を育成、リーダーとして認定 H31年3月 認定式予定



18

4. 今後の展望

関東・東北豪雨



19

平成30年12月 中央防災会議 防災対策実行会議

平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ 報告

- おわりに
本ワーキンググループでは、平成30年7月豪雨による河川の氾濫、土砂災害、ため池の決壊等の様々な形態によって甚大な被害が発生したことを受け、各分野の専門的な知見を有する学識経験者等により、被災地の現地調査やヒアリングを行い、関係省庁における検討とも連携し避難対策の強化について議論した。
今回の豪雨災害は、行政主導の避難対策の限界を明らかにし、**国民一人ひとりが主体的に行動しなければ命を守ることは難しいということを我々に突き付けた。**行政には、引き続き、避難対策の強化に向け全力で取り組むことを求めるが、加えて、国民の皆様にも、下記のことを強く求める。
- ＜国民の皆さんへ～大事な命が失われる前に～＞
- ・自然災害は、決して他人ごとではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
 - ・気象現象は今後更に激甚化し、いつ、どこで災害が発生してもおかしくありません。
 - ・行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が間近に迫っているとき、行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。
 - ・行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
 - ・避難するかしないか、最後は「あなた」の判断です。皆さんの命は皆さん自身で守ってください。
 - ・まだ大丈夫だろうと思って亡くなった方がいたかもしれません。河川の氾濫や土砂災害が発生してからではもう手遅れです。「今、逃げなければ、自分や大事な人の命が失われる」と意識を忘れないでください。
 - ・命を失わないために、災害に関心を持ってください。
 - ・あなたの家は洪水や土砂災害等の危険性は全くないですか？
 - ・危険が迫ってきたとき、どのような情報を利用し、どこへ、どうやって逃げますか？
 - ・「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、一人では避難が難しい方の援助など、地域の皆さんで助け合ひましょう。行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。

20

一人一人の水害の見える化

危険

我がごと化
備える

リスク
水害
洪水
内水
土砂
高潮
津波



低い ← 所在地リスク → 高い

安全・安心

21

荒川・江戸川が氾濫！

そのとき、あなたは、いつ、どこへ避難しますか？

首都水没

250万人

巨大台風の襲来、河川の氾濫や高潮は、他人事ではありません。

平成30年7月豪雨による倉敷市真備町付近の被害状況 撮影：アジア航測（株）

広域自主避難

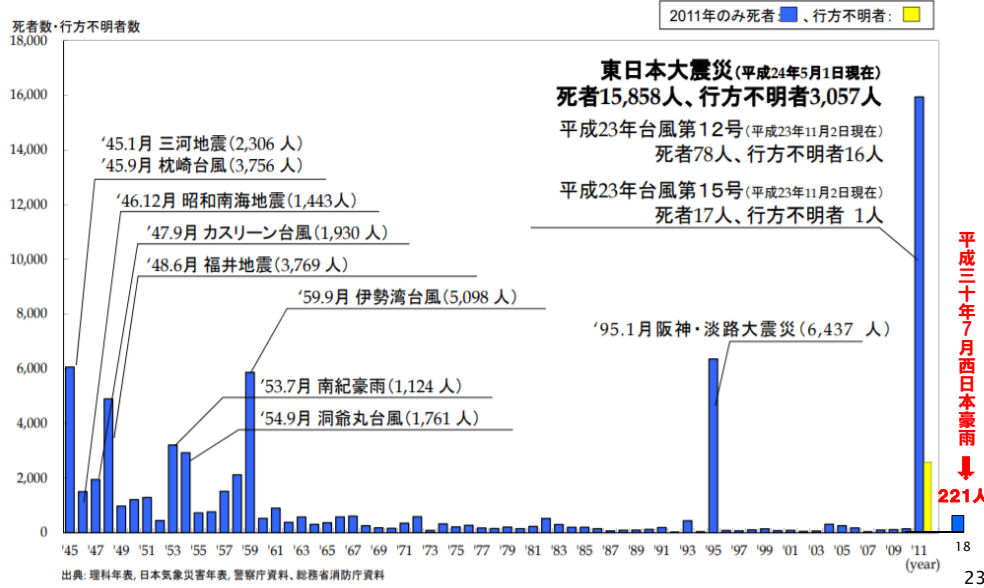
主催 関東5区広域避難協議会（墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区）

平成31年2月17日

日本を中心に様々な被害をもたらした平成30年7月豪雨。その被害が、我が国各地に広がっている。特に、関東5区（墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区）は、多くの河川が氾濫し、甚大な被害をもたらしている。この被害を未然に防ぐため、関東5区は、広域避難推進シンポジウムを開催し、関係機関と連携し、避難対策の推進に取り組んでいる。

22

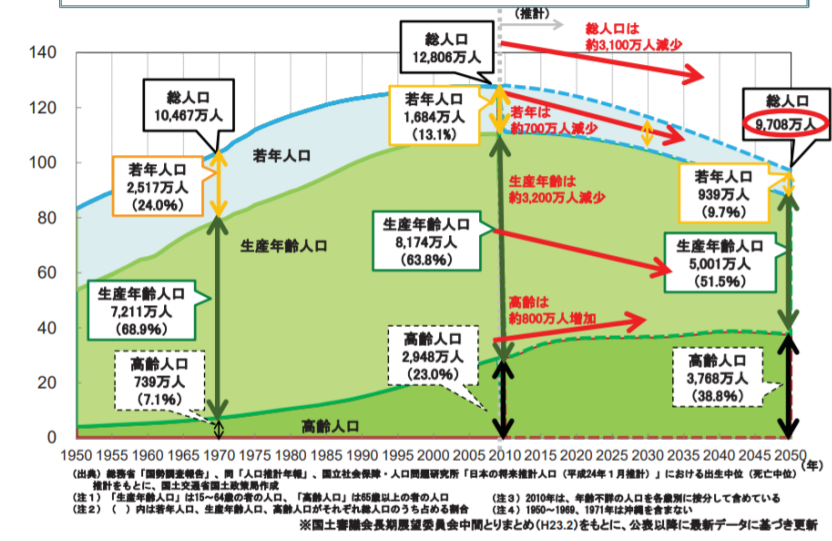
自然災害による死者・行方不明者数の推移



23

急速な少子高齢化社会・人口減少

○日本の総人口は、2050年には、9,708万人と約3,100万人減少（約24.2%減少）。
○85歳以上人口は約800万人増加するのに対し、生産年齢人口（15～64歳）は約3,200万人、若年人口（0～14歳）は約700万人減少する。その結果、高齢化率でみればおよそ20%から40%へと高まる。



24

マイ・タイムラインの先にあるもの

- 逃げるのみだけではなく
逃げなくて良い方法もを見つける。
- 危険な場所には住まない。
安全な場所に住まうことも考える。
- 少子高齢化による人口減少から
地域の防災力を低下させない。
- 全ての人が防災力を身に着ける
だから、リスクを知る。

25

社会資本整備審議会河川分科会

大規模広域豪雨を踏まえた水災害対策検討小委員会
～複合的な災害にも多層的に備える緊急対策～平成30年12月

5. おわりに

平成30年7月豪雨では、記録的な長期間の豪雨によって、甚大な人的被害と社会経済被害が発生した。平成27年9月関東・東北豪雨を受けて、「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へと意識を改革し、**社会全体で水災害に備える、「水防災意識社会」を再構築するための取組を進めてきたが、ハード対策とソフト対策には限界があることを認識し、それぞれを独立させることなく、良さを活かしながら有機的なつながりをもって一体的に対策を進めることにより、相乗的な防災・減災効果の発現を目指していく必要がある。**

(中略)

平成30年7月豪雨では、河川の氾濫や、内水氾濫、土石流等に加えて、それぞれの被災形態が複合的に絡み合って発生する災害も発生しており、これまでの個別の対策に加えて、各事業の連携による対策を実施する必要がある。

さらに、ハザードマップや避難情報等が提供されても、逃げ遅れた住民も多くいることが明らかとなったが、**行政のみならず、地区毎に住民一人一人の行動計画等を策定し、災害時に地域の声かけの仕組み等も組み込むことが必要である。**情報提供にあたっては、内容の統一化や整理を進めるとともに、マスメディアや情報通信企業等の連携により、情報の内容を重層的に伝えていくことが必要である。

(中略)

災害時に、社会を構成するあらゆる主体が災害を我がこととして捉えて対応することが基本であり、**住民は自らの命は自ら守る意識を持って避難行動をとる必要がある。**

行政は、各主体を支援するための取組を強化し、各主体は、支援されていることも認識して、自らの判断で行動する社会にしていけることが重要である。

26

○家族を守りたい。
○財産も守りたい。
○地域も守りたい。
そのための一人ひとりの行動
が求められています。

27

あなたも地域の一員です。
今、何が見えてきましたか？

28

平成27年常総市鬼怒川水害対応に関する検証報告書

—わがこととして災害に備えるために—

Ⅳ. 検証に基づく提言

4. 社会全体へのメッセージ

(中略)

そこで最後に、今回の検証作業を通じて本検証委員会が思索したメッセージを社会全体に向けて表明し、本報告書の結びに代える。

(中略)

○平成27年常総市鬼怒川災害は、地域社会が災害に対して日頃から備えることの重要性に改めて警鐘を鳴らしています。日本中の多くの河川流域地域は、平成27年に鬼怒川で起こったことと同様の水害を被るリスクを抱えています。つまり、私たちは、平成27年常総市鬼怒川災害を、日本中の河川流域地域の自治体・住民・企業や関係機関の皆さんに、「ひとごと」ではなく「わがこと」として受け止めていただきたいと思います。

(中略)

○そこで、日本全国の市町村及び都道府県は、上記の各提言を「わがこと」として捉え、自地域においても同様に必要な見直し、対応を図ることで、同様の自然災害がもたらす被害をできる限り抑える努力を行って欲しいと願っています。

(中略)

○最後に、住民の皆さんは、ハザードマップなどをご家庭に常備し、自分の住む地域が抱えている自然災害発生の危険度を咀嚼し、周辺地域も含めた気象情報、河川水位情報などが自分の住む地域に対して持っている意味を「わがこと」として十分理解し、自ら自律的に避難開始・完了する地域防災力を身につけていただくよう願っています。以上

29

【参考資料】

逃げキッドの内容



30

表

封筒

裏



31

マイ・タイムライン作成のためのチェックシート

洪水浸水想定区域図でチェック

◇あなたの住んでいる場所の浸水深は?

m

◇あなたの住んでいる場所の浸水継続時間は?

時間

◇あなたの住んでいる場所は家屋倒壊等氾濫想定区域ですか?

☐ はい ☐ いいえ

洪水浸水想定区域図を
みてみましょう

国土交通省ホームページ
「浸水ナビ」 <https://suboumap.gsi.go.jp/>

家庭の状況チェック

車 ☐ 有 ()
 ペット ☐ 有 ()
 持病薬 ☐ 有 ()
 避難に支援が必要な人 (高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦)
☐ 有 ()
 親戚など避難を受け入れてくれる場所
☐ 有 ()

32

